

安芸津町の紹介

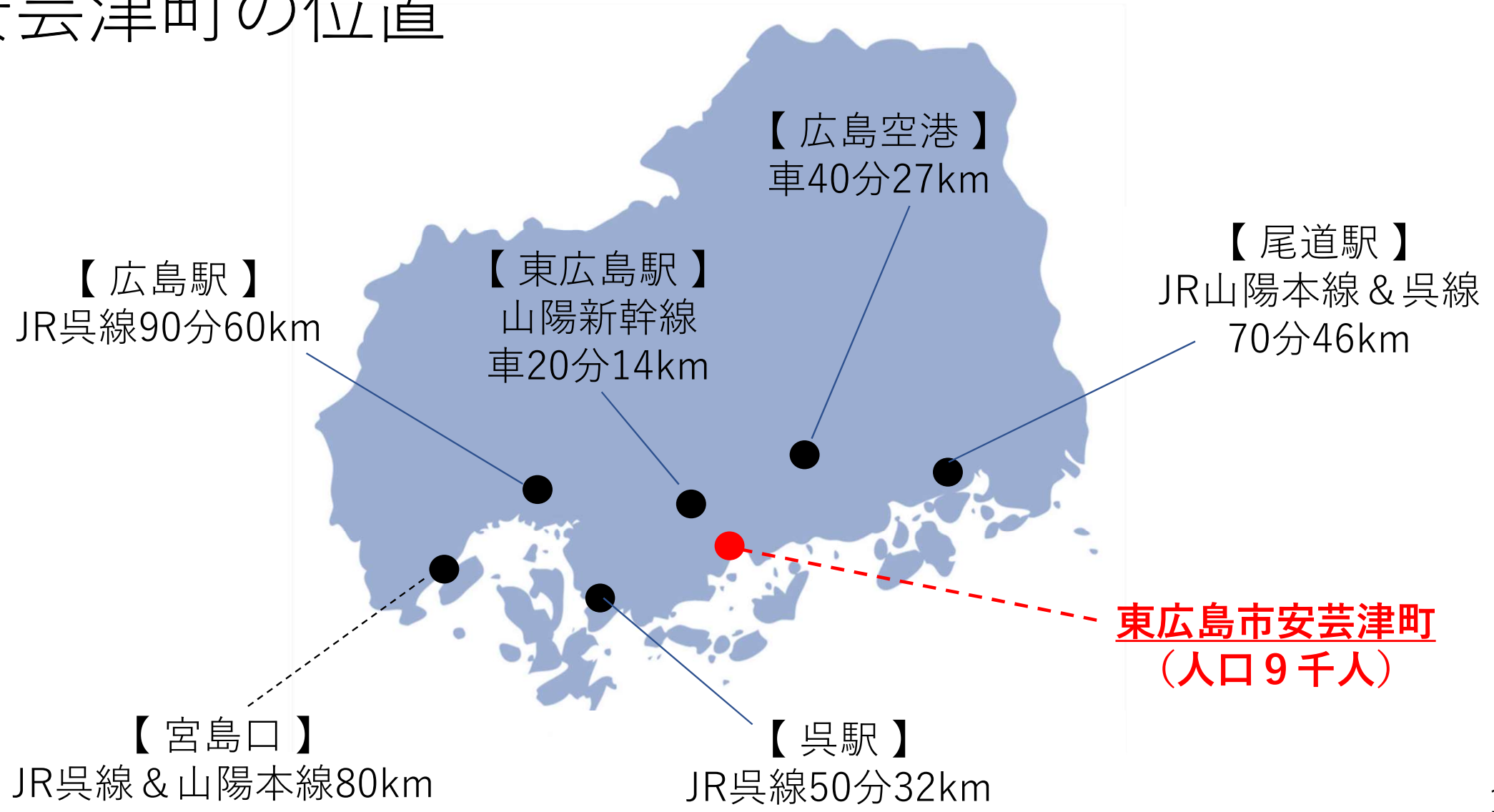
安芸津町観光協会

会長 土居 則行

副会長 本宮 克博

<https://akitsu-kankou.jp/>

安芸津町の位置

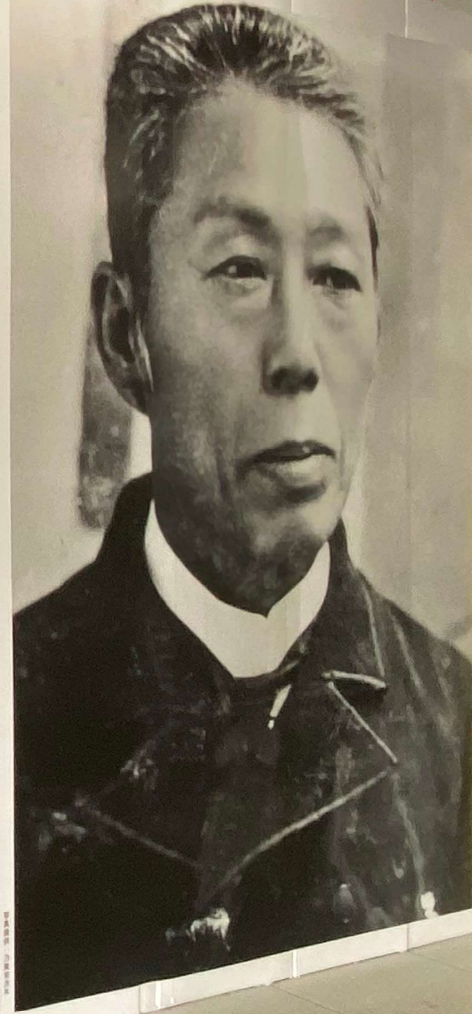


東広島市安芸津町
(人口9千人)

歴史・いわれ

- 1943年に3つの町村が合併（2005年東広島市編入）
- 町名の由来：安芸（江戸時代の藩名）の良い津（港）
- 万葉集に2首
 - ✓ 新羅国へ派遣された阿部継麻呂使節団が船泊まり
 - ✓ 旅に出るときに妻から贈られた離愁の歌を思い出して詠む
 - ✓ 我が故に 妹嘆くらし 風早の 浦の沖辺に 霧たなびけり（巻15・3615）
 - ✓ 沖つ風 いたく吹きせば 吾妹子が 嘆きの霧に 飽かましものを（巻15・3616）
- 年貢米の船積み地
- 塩田（北前船の寄港地）
- 赤土を利用したレンガ製造（呉海軍の倉庫）

産業：清酒（1）



三浦仙三郎

みうら せんざぶろう

「旨い酒を醸したい」
 三浦仙三郎の酒造りに関する伝記的な文章が、黄色い背景に記されている。右側には「広島の酒で大切な人と杯を交わしませんか？」という問いかけがある。

吟醸酒を創った男 「百試千改」の記録

この言葉が彼が用いている、いかに心を配っている、ときどき
 かり強い風が吹く、水も激しく揺る、曇り上がり、肌痒くなる。
 かなして雨はあがったものの、雲の影はほやほや、ときどき雲間を破る
 秋の陽はすく、かくれてしまう。しつとり雨を傘で止めて、三浦
 屋での赤いシシ造りの「雨屋」が参加者の目を惹く。

たて続けに蒸留の花火が上げられ、人々はいよいよ夢をあきらめ、白
 い煙の玉が思いどおりに林間に散り落ち、一夜一雨清酒評会と書か
 れた大きな看板が風にあおられて揺れている。
 明治四十年（一九〇七年）十二月十七日、大塚町醸造試験所（東京府北區野
 川）で、醸造会主催の「清酒品評会賞状授身式」が開催された。全国の酒
 を賞状に、その品名と醸造者名が記し合っているという画期的な試みである。
 みるみるうちに会場は、酒師、出品受賞者、新聞記者等の報道関係者
 などを中心、三浦仙三郎一人に集まる人波に覆れ、三浦仙三郎は、口々に品
 評会の以外な結果を報告した。
 「広島の酒が優等（一等）に選ばれたとは、信じられない」
 「何か間違いないか」と尋ねると、三浦仙三郎は「二位も広島酒だということ」
 「何の酒は存外よ、（三浦仙三郎）は、いたいた審査はどうかということ」
 と首をひねった。三浦仙三郎は、三浦仙三郎が、
 「と、何が不満なんでしょうか、三浦仙三郎に聞いても、
 まらんだらう、
 と、口をはさむ、
 「同感だね、優等を受賞し勝ち酒であるところだから、
 判じてみてから文をいければいい（三浦仙三郎）」
 大きくうなずく三浦仙三郎は、「（三浦仙三郎）というサインが有りわ
 った。」
 午後二時、醸造会主催の「清酒品評会賞状授身式」の開始を告げる醸
 造試験所の「百試千改」の試みは、三浦仙三郎の酒造りに関する伝記的な文章が、黄色い背景に記されている。右側には「広島の酒で大切な人と杯を交わしませんか？」という問いかけがある。

広島駅ビルの建て替え工事 (2020/11~2021/5)

明治時代の初期、酒造用水としては、醗酵
 が旺盛になりやすい硬水が適していると言わ
 れていたのに対して、三浦仙三郎が生まれ
 育った賀茂郡三津村（現・東広島市安芸津
 町）一帯の水は醗酵が緩慢になりやすい軟水
 で、優良な酒を造るのが難しく、腐造に至る
 ことも度々だった。
 仙三郎は、灘など当時の酒造先進地を訪
 れては研究し、科学的手法も取り入れ、「百
 試千改」の努力を重ねて、軟水でも良質な酒
 を造りえる技術を編み出した。また、それを
 『改醸法実践録』にまとめ、惜しみなく公開
 して広めた。「軟水醸造法」と呼ばれたその
 技術は、きちんと温度や時間を測る、清潔を
 励行するなど、現代から見れば実に基本的な
 事項の徹底であるが、勘に頼った酒造りが横
 行していた当時、それは画期的な酒造法で
 った。それが、現代に至る吟醸酒造りの発
 とされている。
 らに仙三郎は、広島県酒造組合や醸杜
 会（現在の広島杜氏組合へ発展継承）の
 にも大いに貢献し、酒造りに関わるには、
 技術だけでなく人格形成も不可欠である
 た。
 三浦仙三郎の尽力は、明治後期に始
 国清酒品評会に於ける広島県勢上位
 う華々しい結果として表れ、吟醸王

軟水醸造法・広島杜氏 生みの親

産業：清酒（2）

- 軟水による改良醸造法
 - ✓ カルシウムやマグネシウム等の金属イオン含有量が少ない軟水
 - ✓ 京都・伏見の酒造家の講演で水質の違いを認識
 - ✓ 軟水に合った酒造法を確立し広島酒を世に広める礎（杜氏の里）
 - ✓ 最盛期には20軒を超える酒蔵
 - ✓ 現在は「柄酒造」「今田酒造本店」



産業：漁業・農業



牡蠣

- 塩分濃度が高い海でじっくり育つ
- 小ぶりながら引き締まり甘みが際立つ
- 国道185号線沿いには多数の直売所

じゃがいも（品種：出島）

- 赤土（鉄分等を多く含むミネラル豊富な土壌）で栽培されるブランド品
- ホクホク感、煮崩れしにくい
- 7月と12月に収穫



産業：その他



- 農業

- ✓ 柑橘類（みかん、八朔、ジャボン、レモン）
- ✓ びわ：柔らかい果肉、甘みと酸味のほどよいバランス

- 造船業

- ✓ 昭和40年代まで
- ✓ 石油ショック以降減少
- ✓ 現在は1社



見所：正福寺山公園の桜（4月初め）



- 1,500本のソメイヨシノ
- 穏やかな瀬戸内海を一望
- 晴れた日には遠く四国山脈も



見所：じゃがいもの花（5月下旬）



見所：朝・夕・夜



夕：赤崎



朝：風早

夜：大芝大橋



見所：三津湾の七島



龍王島
龍王島自然体験村



藍之島



国立公園
小芝島 (ハート島)



鼻繰島



ホボロ島
消滅の運命



唐船島

行事：三津祇園祭

- 京都御所改築に功績をあげた木原保右衛門が京都祇園祭に感銘し三津で再現
- 7月第二日曜日
- 神役・神輿・毛槍奴が神木瓜（かんもっこ）の調子に合わせてJR安芸津駅前から素鷲神社までの4キロを数時間かけて練り歩く
- 市重要無形民俗文化財



行事：祝詞山八幡神社・神賑行列

- 10月第1日曜日の秋季大祭
- 神輿に続き、挟箱・毛槍を振る奴や笛太鼓の鳴物、鬼など総勢130人に及ぶ行列
- 市重要無形民俗文化財



行事：重松神社・渡御行列

- 重松神社の例祭
- 隔年の10月第3日曜日
- 寛政年間（1795年）より
- 囃子と奴が伊勢音頭を唄いながら、神社からお旅所までの150mを4時間かけて歩く



行事：見立て細工展（7月末）

- 住吉神社大祭・東広島花火大会と同時開催
- 自店の商品を加工せずに何かに見える物をつくり、使ったものは、解体後、販売する
- 2020年は20店舗参加



安芸津の夏を彩る 今年で260年目を迎える!
伝統の
見立て細工展
5時間限定展示!

【日時】令和2年7月25日(土)午後2時~展示
【場所】東広島市 安芸津町 三津地区本通・胡町・浜町商店街
【お客様投票】7月25日(土)午後4時~
【投票用紙配布】①呉信用金庫安芸津支店
①・②・③ともに午後4時~②南酒店③白木ストア
【投票用紙回収&抽選会場】山下呉服店
午後4時30分~午後7時まで

《見立て細工とは?》
自分の店で売っている商品を加工しないで何かに見える物をつくる。
使った商品は解体後に販売できるというのが見立て細工です。

見立て細工の全店舗を回って投票! 抽選会に参加できます!
空クジなし! 詳細は裏面をご覧ください。小学生以上の方を対象です!

【主催】安芸津町商工会
【協賛】読売センター安芸津・中国新聞安芸津販売所